

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う経済的影響と指導

紀北家畜保健衛生所
○山中克己 野口浩和
高橋康喜

【背景】

新型コロナウイルス感染拡大による経済的影響は畜産分野にも波及し、2020年2～6月頃の牛枝肉相場の下落等、農家の経営悪化が懸念された。

また、畜産農家の仕事は代替者に任せたりリモートワークが困難であり、本人や従業員の感染等のリスクに対し不安を抱え続けている。このような未曾有の事態の中、管内農家や当所の動きを報告する。

【目的】

経済的ダメージを受けた畜産農家をサポートし、リスクに強く安定した畜産経営を図ってもらえるよう、各種調査や指導等を実施した。

【調査・指導等】

① 経営影響調査（2020年5月）

経営的影響が最も大きかったと思われる時期に豚、鶏、牛等計58戸（主要全農家）を対象に出荷量、売上高、前年比等の調査を実施した。

その結果豚、指定生乳生産者団体へ出荷している酪農、多くの採卵用鶏及び肉用鶏の農家では単価、売上高に影響がなかった（図1、2）。

6次産業のアヒル（1戸）及び酪農（1戸）では売上高が減少した。

繁殖和牛及び肥育牛の全戸では売上高が減少し、出荷方法の変更、飼料代金の支払延長等の経営的な工夫が行われていた（図3）。

② 各種支援策利用促進（2020年8月）

国や県の支援策として給付金（持続化給付金等）、補助金（経営継続補助金等）、融資制度（農林漁業セーフティネット資金等）等が用意された（図4）。

また、既存の肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定交付金制度に加え優良肉用子牛生産推進緊急対策事業、肥育牛経営等緊急支援特別対策事業が創設された。

当所は家畜衛生だよりを作成し、これらの支援策を全畜種の飼養者へ周知しつつ、このことに関する指導を実施した。2020年10月、経営的ダメージが大きかった肥育牛農家を中心に支援策利用状況調査を行い、その結果を活用しサポートや指導を実施した。

③ ヒトの感染予防対策（2020年5月）

ヒトの感染予防等について、経営者や従業員を対象に当所の家

畜衛生だよりや国のチェックリストを用いて指導を2回実施した。

【今後】

現在（2022年1月）も新型コロナウイルス感染拡大の経済的影響は継続し、畜産業において今後の予測が困難な状況にある。変化に強い畜産経営を目指し、当所は農家の生産性向上等に関する調査や指導に注力し、生産基盤の強化を図る。

図1 影響調査結果①

豚

・出荷量、売上に影響なし

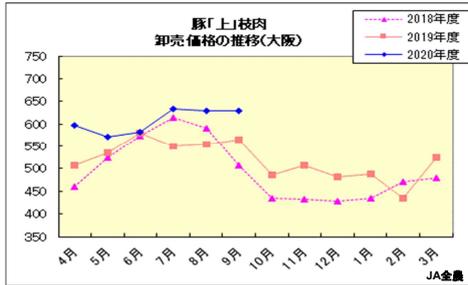


図2 影響調査結果②

鶏

・採卵用、肉用:単価、売上に影響なし

※卵価前年月比 100%以上

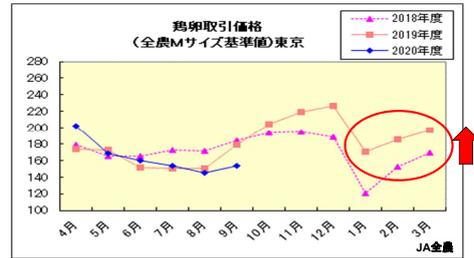


図3 和牛関連相場

売上減少

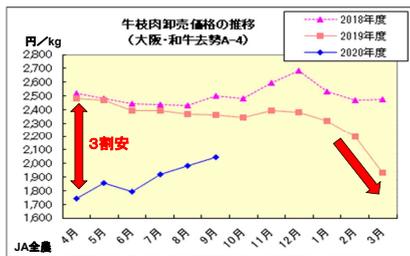


図4 支援策 (一般、農業全体)

事業等名	内容	対象	
給付金	持続化給付金【国】	給付金を支給 個人事業者最大100万円	個人事業主
	事業継続支援金【県】	支援金を支給	県内事業者
補助金	経営継続補助金【国】	農林漁業者の経営継続を支援	農業者
	事業継続推進事業【県】	新たな取組に係る経費を補助	県内事業者
融資制度	農林漁業セーフティネット資金【公庫】	運転資金 貸付5年間は実質無利子	農業者
	農業経営基盤強化資金【公庫】	設備・運転資金 融資期間25年以内(据置10年以内)	認定農業者
	新型コロナウイルス感染症対策緊急対策資金【県】	運転資金 融資期間7年以内(うち据置期間1年以内)	農業者